

提案のあった意見の概要

ビジョンの示し方に関するもの（1件）

- ・財政難などから、福祉・教育・文化ゾーンとしての目的を達成していない。改めて、社会的変化を踏まえた次代への施設ビジョンと各施設の良さを融合させた新たな「びわこ文化公園都市」として新たな価値の創造を図ったビジョンを示すべき。

（意見に対する考え方）

びわこ文化公園都市が持つ強み、課題、取り巻く社会状況等を勘案し、これまで整備してきた施設・機関が相互に機能を高め合う「機能連携」に主眼をシフトし、まちの熟成を図っていくこととしています。

そうしたことから、課題の解決を図りながら、強みを活かしていく目指すべき5つの将来像を設定しています。

地域住民の参画に関するもの（2件）

- ・将来ビジョンは、地域経済の振興やまちづくりにつながるべき。そのためには地域の方々が参画した主体的な取組が必要。中長期的な推進にあたっては「地域発」という視点を明確にすべき。
- ・将来像実現のための会議には、地元で活動しているメンバーが参画するべき。

（意見に対する考え方）

「9. 将来像の実現に向けて」では、「その実現に向けては、…周辺地域の住民を始めとした県民、利用者…幅広い主体が関わり…これらの取組を通して、びわこ文化公園都市のまちとしての熟成を図っていくべきである。」としています。いただいたご意見は、今後の具体の検討課題とします。

施設連携、機能連係に関するもの（6件）

- ・「びわこ文化公園都市の将来像と方向性（5）いのちと健康を支える場」に記載の取組例からは課題解決につながるように思えない。隣接する龍谷大学との連携を強化するべき。

（意見に対する考え方）

<取組例>は例示であり、大学を含め関係する施設・機関の機能連係を主眼にビジョンを取りまとめているところです。

- ・具体的な事業に基づく機能連係を提案する。
 - 未処理下水道熱の利用など、エネルギーの地産地消
 - 里山の間伐材など「地域資源を用いた持続的な防災」といった観点からの低炭素・

循環型の都市モデル形成

- 医療と連携した観光の新しい可能性の創出（外国人患者などのニーズに合致した受入環境づくりの検討など）
- ・福祉ゾーンの再開発（障害関連施設、大学、地域住民との触れ合いゾーンの設置）
 - 福祉用具の開発販売など、大学福祉施設提携での共同開発
- ・ウォーキング治療の創設。地元民と医師と患者が協働でびわこ文化公園都市ウォーキング周回道を歩き治療する。

（意見に対する考え方）

これらに関しては、将来像の（１）の＜取組の方向性＞に「多様な資源を活かした魅力あるツーリズムなど新たな取組の検討」を、（３）の＜取組の方向性＞に「各施設等における新エネルギーの取組促進に向けた検討」「各大学等の研究シーズと事業者等のニーズとの接続を促進する取組の実施」を、（５）として「豊かな自然環境に抱かれた癒しとやすらぎを五感で感じる健康・スポーツケアエリア」を描き、＜取組の方向性＞に「健康・スポーツ、医療・福祉エリアとしての安全性、快適性の向上と利活用促進に向けた取組の実施」「自然環境や医療・福祉施設等の集積を活かした心身の健康維持・増進の促進に向けた検討」を掲げています。いただいたご意見は、今後の具体の検討課題とします。

施設の利活用に関するもの（５件）

- ・「わんぱく原っぱ」の利活用促進として、定期的に大学生が利用することにより安全性・利用頻度が向上する。
- ・子どもの工作、理科離れに対応するため、図書館や美術館、公園管理事務所の会議室で、龍谷大学や立命館大学の学生に教室を開放してはどうか。
- ・レイカディアエリアの会議室を文化芸術団体の練習場として活用
- ・国史跡源内峠遺跡、源内道、木瓜原遺跡等歴史資源の保存と観光活用
- ・この丘陵地は、江戸時代はマツタケの宝庫であった。地元ボランティアグループとの森の復活活動の取組

（意見に対する考え方）

これらに関しては、将来像の（２）の＜取組の方向性＞に「文化関係施設と各施設の連携による子どもや若者の学びや成長を育む取組の実施」を、（４）として「脈々と守り育てられてきた豊かな緑や歴史遺産と地域の誇りを次世代に引き継ぐエリア」を描き、＜取組の方向性＞に「歴史資源、樹林地の保存、活用の促進に向けた取組の実施」を、（５）の＜取組の方向性＞に「健康・スポーツ、医療・福祉エリアとしての安全性、快適性の向上と利活用促進に向けた取組の実施」を掲げています。いただいたご意見は、今後の具体の検討課題とします。

アクセス等に関するもの（3件）

- ・人と人との交流、国内外からの来訪者が気持ちよく滞在できる施設や交通体系などハード、ソフトの環境づくりに取り組む設計図を示してはどうか。（周辺は交通の要衝であるが、渋滞地域。最寄りの JR 瀬田駅には新快速が止まらず、国際基準のアイスアリーナも孤立している。交通体系がマッチしていない。）
- ・京阪電気鉄道石山坂本線の石山寺駅から延長して瀬田川を渡り、希望が丘文化公園野洲口または JR 篠原駅付近までの京阪湖南山手線を構築してはどうか。
- ・びわこ文化公園都市周辺道路の整備。新エネルギー利用の周回バスの活用。

（意見に対する考え方）

これらに関しては、将来像の（1）の＜取組の方向性＞に「地域内外のアクセス性の向上に向けた取組の検討」を掲げています。いただいたご意見は、今後の具体の検討課題とします。

施設整備等に関するもの（8件）

- ・福祉ゾーンの再開発（障害関連施設、大学、地域住民との触れ合いゾーンの設置）
 - 駐車場の整備
 - 交流スペースの造成（総合案内窓口や障害のある方が作った商品の販売、福祉用具等の販売、レストラン、コンサート会場、お祭り広場、公園、散歩道、遊具の設置等）
 - 自然エネルギーの共同利用（福祉ゾーン施設群の広大な屋根を利用した太陽光発電）
- ・文化ゾーンを広げ、県民がスポーツを楽しめる広場にしてはどうか。
 - 例えば、フライングディスクは龍谷大学や立命館大学にもチームがあり、誰でも楽しめるスポーツ。練習ができる環境を整備してはどうか。
- ・「わんぱく原っぱ」は小石が多く子どもにとっては危険。芝草の整備といった広場の整備を強化していただきたい。
- ・びわこ文化公園都市の各施設は太陽光発電等の新エネルギーで電力を賄うよう改善
- ・アイスアリーナを中心とし、野球場・テニスコート・サッカー場・グランドゴルフ場等を集中させた体育エリアの設定
- ・災害対策として、地下水の利用と避難所施設としての機能を整備

（意見に対する考え方）

これらに関しては、将来像の（1）の＜取組の方向性＞に「県民や利用者にとっての安全性、快適性の向上に向けた取組の実施」を、将来像の（3）の＜取組の方向性＞に「各施設等における新エネルギーの取組促進に向けた検討」を、また将来像の（5）として「豊かな自然環境に抱かれた癒しとやすらぎを五感で感じる健康・スポーツケアエリア」を描き、＜取組の方向性＞に「健康・スポーツ、医療・福祉エリアとしての安全性、快適性の向上と利活用促進に向けた取組の実施」「災害における施設間連携や体制づくり等の促進に向けた取組の実施」「災害時における救援、救護、支援等に関する更なる機能の検討」掲げています。いただいたご意見は、今後の具体の検討課題とします。